

鳥獣の 保護管理

ツキノワグマのモニタリング調査

～ 地域個体群の長期にわたる安定的な維持と

研究の背景・目的

・西中国地域(島根県、広島県、山口県)のツキノワグマは、孤立分布して生息数は少ない。

そのため

・しまねレッドデータブック「絶滅危惧 類」
・日本版レッドデータブック「絶滅の恐れのある地域個体群」に指定。

しかし

・近年、生息域が拡大し、人里付近への出没が多くなって、養蜂、クリ園、民家のカキへの被害やクマハギが発生し、捕獲数が増加しています(図)。

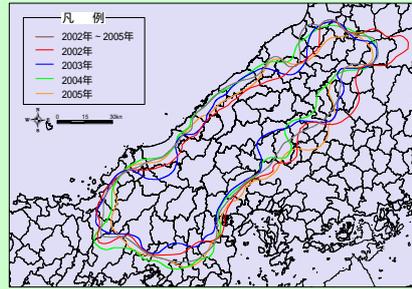


図 生息域の拡大

適正な個体群管理手法の
確立が求められています。

特定鳥獣保護管理計画(島根、広島、山口県で共通の計画を策定)

「生息環境」、「生息状況」、「捕獲状況(捕獲個体分析・捕獲個体の放獣)」等のモニタリングが義務づけられています。
ツキノワグマの生息環境、個体数、被害状況などは常に変動していくため、継続した調査が必要です。また、近年の人里への異常出没の原因を究明し、さらにクマの生息地(奥地)の環境整備の手法を検討する必要があります。

研究方法

「特定鳥獣保護管理計画」で求められるモニタリングのために、生息環境や生息実態を把握し、捕獲個体は解剖調査を行います。とくに、人工林などの伐採跡地や列状間伐跡地の植生調査から、クマの好適な生息環境を再生するための技術手法を確立します。各種の堅果類の種子生産量等の年変動と、クマの出没状況および捕獲個体の解剖結果との関連を分析し、人里への異常出没の原因究明を行います。また、クマハギの発生原因を究明するとともに、クマハギ被害を回避するために生分解性ネットによる被害防除効果を検証します。

研究の現場移転(成果-技術-の移転先・対象の量など)

異常出没の原因を究明し、「特定鳥獣保護管理計画」にフィードバックして、今後の適切な保護管理技術とクマの好適な森林環境整備の手法を確立できます。

近年発生したクマハギの発生動向を把握し、発生原因を究明すると共に、生分解性ネットを用いた環境面も考慮した防除方法を確立できます。

、 によって、ツキノワグマの適切な保護管理が推進できると共に、人とクマとの共存が可能となります。また、中山間地域において安心して生活できる環境が維持できます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 澤田 誠吾

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3819

Mail: chusankan@pref.shimane.lg.jp (中山間研究C)

試験研究課題名: ツキノワグマの保護管理と被害対策のモニタリング調査

(研究期間: H21 ~ 23)